

経営に有効な 予兆管理が出来る事故・クレーム 防止システム

2023年7月15日

梅里泰正

一社) ディレクトフォースメンバー
元富士電機(株)専務執行役員
元富士電機工事社長
元早稲田大学理事

目次

*** 現役時代の問題点** ①再発事故が防止できるシステムの検討
②事業戦略に使える各種データの収集

1. 再発防止マトリックス

事故防止、事業技術戦略、作業合理化システム

1-1;再発防止マトリックス

2 リスクセンス(RS)システム

3各種マネージメントシステムと リスクセンスとの関係

1

再発防止マトリックス 事故防止、事業技術戦略、作業合理化システム

* 每期、無くならない再発事故への防止策の検討

事故再発防止マトリックス

—縦軸; 工事名 横軸; 作業内容(85項目)

—発生事故を、作業内容欄に。事故内容を分析し、原因毎の事故防止策
事故発生原因が事故発生条件ごとに相違、全ての事故の防止対策難しい

* 今後進出すべき分野検討の為に、保有すべき能力、投資レベル、その資料化

企業経営にとっての、事業戦略への活用: 必要技術への展開

—将来進出分野、エンジニアリング能力、能力保有者リスト

—必要技術の確保; 社内教育、ヘッドハンティング、企業買収等

—技術標準化、資料化、コスト算出システム、

—作業手順書、作業マニュアル

1-1

再発防止マトリックス

作業内容（145項目）

作業1 作業2 作業3 作業4・ ・ ・ ・

発生事故リスト

発生した事故ごとに、事故原因、再発防止策を記入

（
8
5
項目）
商談／工事名

商談／工事名(例)	
A	特高変圧器据え付け
B	配電盤据え付け
C	発電機版据え付け
D	光ケーブル配線工事

作業名(例)	
1.	入荷品チェック
2.	重点基本作業
3.	溶接、切断作業
4.	高所作業
5.	各種据え付け作業

ISO9000と新しいリスクセンス（RS）システム

A ISO9000,社内品質規定等

事故を発生した作業プロセスや手順を明確にし、これらを避けることによって事故を防止するシステム。（問題解決型）

- * 過去、事故を起こしたやり方をさける。
- * 作業前毎に防護策確認
- * 事故発生ごとに、新しいルールが追加される。（無限に存在する）

B リスクセンス診断システム

組織の状態を11の診断項目で診断し、芳しくない項目が複数存在すると、事故が顕在化する危険性がある。

決められた組織の診断項目で常時診断し、その変化に応じて対応することによって、事故を防止するシステム(課題解決型)

- * 事故を発生しない組織の状態11項目による常時監視
- * 防護壁劣化補修・修復により、事故の顕在化防止：予兆管理が可能

組織の状態を診断する11の診断項目

	診断項目	診断の視点
Learning 自律的に学ぶ姿勢	L1リスク管理(リスクを知る)	新しい事柄(新規事業、新規取引、新製品開発、新設備の設置等)を始めるにあたって、それぞれに適したリスク評価システムを設け、そのルールにのっとり推進しているか
	L2学習態度(水平展開)	自他の失敗事例に学ぶ姿勢があるか
	L3教育・研修	教育研修制度が導入され維持され、実効を上げているか
Capacity 基礎体力 (自ら監視)	C1モニタリング組織	トップに直結した独立した組織か
	C2監査	会計監査、監査役監査、ISO,業務監査などのガバナンス向上のための監査を行い、組織の経営目的が達成されているか
	C3内部通報制度	内部通報制度は周知され、機能しているか？
	C4コンプライアンス	コンプライアンス意識が浸透し、行動しているか
Behavior 前向き積極的な行動力	B1トップの実践度	方針を出し、自ら実践しているか
	B2HH/KY	効果を上げているか
	B3変更管理	それぞれに適した変更管理を行なっているか
	B4コミュニケーション	報・連・相+反の双方でが行われているか

4 リスクセンスシステムとマネージメントシステム

- * 企業経営には、各種のマネージメントシステムが必要
- * 経営の視点からは、リスクセンスシステムの、11項目による組織の健全性診断が、全てのマネージメントとのベースになっている。
- * マネージメントシステムは**共通部分**と**個別要求部分**で構成
 - **共通部分**； 組織の健全性＝リスクセンスシステム
 - **個別要求部分**：対象とするマネージメントの要求項目

**リスクセンスシステムは、事故防止システムだけでなく、
全てのマネージメントの共通要素である、「組織の健全性」に関係している。**

4-1 各種マネジメントとリスクセンスシステム

